

ちよつとしい話

～生の願望から死への目覚め～

佛教は、お釈迦様のお説きになった教えで、その根本を流れる思想は輪廻転生です。お釈迦様にも前世があります。お釈迦様は、人間界に生まれる前は天上界の兜率天で修行をされてきました。その修行の結果人間界に下り、その救い救われる道を示され、佛としての一生、人間としての生き様を身を以て教示して下さいました。

お釈迦様は、父シュッドーダナと母マーヤーの子として誕生し名をゴータマシツダルタとつけられました。後のお釈迦様です。最初の不幸は、誕生七日にして最愛の母マーヤーが死んでしまったのです。後妻としてマーヤーの妹マハーパジャパティが迎えられました。七日にしてお釈迦様は生きる事とは、死ぬ事とはどんな意味があるのか、疑問の目を向けられたのです。この出来事が佛教の原点になっております。

輪廻転生とは、過去、現在、未来への繰り返しによって、この大宇宙が存在していると言うお釈迦様の教えです。私達人間は、この教えに基づき、因果応報によってそれぞれ次の生が決められるわけです。

善入院油掛地藏尊